

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	10
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	4
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1473200986
法人名	医療法人社団 平平會
事業所名	グループホームふぁいと パティオつくいけ
訪問調査日	令和7年1月14日
評価確定日	令和7年3月17日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200986	事業の開始年月日	平成16年8月1日
		指定年月日	平成16年8月1日
法人名	医療法人社団 平平會		
事業所名	グループホーム ふあいとパティオつくいけ		
所在地	(〒241-0031) 横浜市旭区今宿西町 3 5 8 番地		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年1月5日	評価結果 市町村受理日	令和7年3月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、昨年8月に20周年を迎えました。これまで地域密着・地域交流を目標に掲げてきました。近隣の方々には毎日の散歩や行事の際には親しくお声を掛けて頂く等、地域に根付いたホームになっていると思っています。支援の面では終末期の方の対応もしており、幅広く充実したケアを行っています。又、保護猫を飼育しており、入居者様の癒しとなって様々な効果が得られています。昨年には新型コロナウイルス感染の影響により中止されていた地域の行事も復活しており可能な限り参加させて頂いています。今後も、地域の方々、入居者のご家族様にご支援を頂きながら、より満足して頂けるケアを行っていきけるよう、努力していききたいと思います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	神奈川県横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和7年1月14日	評価機関 評価決定日	令和7年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は医療法人社団平平會の経営です。同法人は株式会社白寿会と共にグループ法人として「安心の暮らし、お手伝いします」をモットーに、横浜市、川崎市、鎌倉市内でグループホーム、看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーション、クリニックを運営しています。グループ法人では、「介護として困っている人を助ける、医療として人の命を救う」を使命とし、介護と医療の総合的なサービスを提供しています。ここ「グループホームふあいとパティオつくいけ」は平成16年に開所し、医療法人社団平平會・株式会社白寿会グループにおいて、最も歴史と実績のある事業所です。立地は相鉄線「鶴ヶ峰駅」で下車し、鶴ヶ峰バスターミナル4番乗り場から「若葉台中央行き」のバスに乗り「筑池」停留所下車して徒歩5分程の畑や竹林に囲まれた住宅地の中にあります。

●事業所独自の理念を職員全員で話し合い「地域の中で個々の思いを大切に寄り添う介護を行います」を事業所の理念に掲げています。管理者は「地域の皆様と共にある暮らし」をサービスの根幹とし、理念を共有して実践につなげるために、毎朝の申し送り時に唱和してから勤務に就くようにしています。今年度は、入居者の希望で好きなランチを食べに出かけ大変喜ばれています。

●現在面会は、感染症に注意して特別な制限はなく居室やリビングで行えています。家族の方とはLineで繋がっている方が多く、今年度から地域の行事も殆どが再開されており、その際の様子を写真や、動画なども送っています。また、以前より保護猫を飼育しており、入居者及び職員の癒しとなり様々な良い効果が得られています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ふあいとパティオつくいけ
ユニット名	だいち

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の指針を踏まえ、職員皆で考えてホーム独自の「地域の中で個々の思いを大切に寄り添う介護を行います」との理念を構築しました。思いは常に「地域の皆様と共にある暮らし」と考えています。毎朝の申し送り時には皆で理念を唱えてから業務に携わることが日課となっています。	法人の指針に基づき、事業所独自の理念を職員全員で話し合い「地域の中で個々の思いを大切に寄り添う介護を行います」を事業所の理念に掲げています。管理者は「地域の皆様と共にある暮らし」をサービスの根幹とし、理念を共有して実践につなげるために、毎朝の申し送り時に唱和してから勤務に就くようにしています。今年度は利用者の希望の好きなランチを食べに出かけ喜ばれています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事にも積極的に参加しています。今年度は行事も徐々に復活しており感染に注意を払いながら可能な限り参加させて頂いています。毎日の散歩の折には地域の方々から暖かいお言葉をかけて頂いています。	自治会に加入し回覧板や、地域の方々からイベント情報をいただき参加しています。今年度は町内盆踊り大会や、自治会のレクリエーション大会の参加と、地域のお祭りでは、子供神輿が事業所の駐車場を休憩場所として使用したり、正月のどんど焼きにも参加して地域の方々と交流しています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の運動会・夏祭りの行事や地域活動への参加を通して、認知症の方と地域の方が直接交流を持って頂くことで、認知症に関する理解を深める機会を設けています。今年度より中止されていた行事も復活した為、参加可能な行事には参加して交流を図っています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方々に、報告必要事項の説明やホーム内での相談事をしています。その際、委員からの助言もホームの運営に生かしています。また、ホーム側からの要望も実行して頂いています。今年度は2か月ごとにホームにお越し頂き対面での会議を実施しました。	今年度の運営推進会議は、偶数月毎に、家族代表・町内会長・自治会長・地域包括センター職員・民生委員の方々の参加で、対面で開催しています。事業所の現状や、活動状況、事故、行事等、写真も見ていただき報告しています。参加者の情報や意見・提案は事業所のサービス向上に活かしています。地域の方々との関係性も良好で、事業所からの要望にも応えていただいています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の方とはできるだけ連携がスムーズに行えるように不明な点は電話で確認しています。生活支援担当者とは常に連絡を取り合い情報提供に努めています。	横浜市からは講習会や研修の知らせをいただいたり、不明な点は電話で確認しています。旭区とは、生活保護受給者の受け入れを行っている関係で、担当者とは常に情報共有を行い、定期的な訪問や、必要に応じて連絡を取り合っています。グループホーム連絡会の会合には参加しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、鍵が掛かる自動ドアになっていますが、しっかりと見守りが出来る体制が整えば、自由に出入りが出来るように開錠しています。事務所に身体拘束に関するマニュアルを設置しており、ホームにおいて年2回の研修と4回の委員会を実施、職員への周知を図り、常に身体拘束ゼロを目指し、ケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会は各ユニット会議内で3ヶ月に1回開催しています。委員会では日々のケアの中で身体拘束につながり兼ねないケアや対応がないか事例を交えて討議し、理解を深め共通認識を図りながら、身体拘束ゼロを目指したケアに取り組んでいます。身体拘束に関するマニュアルを事務所に置き、いつでも閲覧できるようにし、職員研修は年2回実施しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人としてのマニュアルを設置し、職員が虐待についての知識を身に付けられるように定期的に研修を行っています。ホーム内で虐待が行われていないか虐待に関する自己チェックも行っており、各々が理解を深める事が出来る様に努めています。	虐待防止検討委員会をユニット会議内で年2回開催しています。虐待については法人で作成されたマニュアルを事務所に置き、いつでも閲覧できるようにしています。職員研修は毎年定期的に実施し、虐待の定義や種類について学ぶ機会を持ち、共通認識を図りながら虐待防止に努めています。年2回は虐待に関する自己チェックを実施し、その結果を基に話し合いを行っています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、必要な知識を得る機会を設けています。実際、制度適用の必要性がある方には、区の担当者やキーパーソンの方と協力して過去に利用した方、現在も利用している方が数名いらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書、契約書等を通じて説明を行い、同意を得ています。解約時にも詳しく手順を伝え、協力できる部分は納得して頂けるまで行うようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在面会は可能になっており、直接意見を伺う機会も持てる様になりました。SNS、電話にて近況報告を行いご意見ご希望を確認しています。契約時に苦情相談窓口の説明を行い、事務所には専用の用紙を備えています。	契約時に、重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について説明しています。事業所に専用の用紙を備えていますが、使用されることは無く、何かあれば直接意見や、要望を聴いています。現在面会は、感染症に注意して特別な制限はなく行っています。家族とはLineで繋がっている方が多く、行事の際の写真や動画なども送っています。いただいた意見・要望は、申し送りノートや、業務日誌に記録して職員間で共有し、運営に反映させています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて面談を行い、各々希望や意見等が聞かれた際には上司や法人に伝えるようにしています。 ホーム内で解決可能な事はユニット会議で話し合いにより解決するようにしています。	朝・夕の申し送りや、毎月のユニット会議で職員の意見や提案を聴いています。事業所内で解決可能な事などは、ユニット会議で話し合い解決するようにしていますが、内容によっては、毎月開催の法人の運営会議に報告し検討しています。事業所環境が良く職員間のコミュニケーションも良く取れていて、職員の個別の相談事などは、その都度管理者が対応しています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として実力能力主義を掲げ、昇給、賞与の時期には査定を行い、反映させています。 働きやすい環境という点についても配慮されており、ほとんど離職する職員はなく、定着率の良さにつながっています。	法人は実力能力主義を掲げ、昇給、賞与の時期には、法人指定の5段階査定表を用いて評価を行い、報酬に反映させています。シフト作成時には、職員の希望休や、年次有給休暇に配慮して作成し、各職員のライフワークバランスに対応する事が、職場の定着率の良さに繋がっています。資格支援制度があり、職員が意欲的に資格取得ができるよう支援しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、法人より各レベルに応じて研修を受講できるよう制度があります。また、資格取得支援制度を設けています。 介護職に必要な研修は、DVDに収められたものも用意しており、各自で勉強できるようになっていますし、定期的にホームにおいての研修を行っています。	入職時には、新人研修マニュアルに従い事業所で研修を行っています。職員の継続研修は年間で研修計画を立てて、法人本部の資料など参考にして実施しています。介護技能などに必要な研修は、法人で用意したDVDを用いて職員各自で勉強できるようになっています。2名の外国人技能実習生が昨年末に入職して、日本語の早期習得のために事業所では、毎日の手書きレポート提出を行っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会による交換研修制度を利用して学ぶ機会を持っていましたが、コロナ禍より中止したままになっています。また、近隣のグループホームとお互いの行事に参加し合うなど交流を重ねて友好関係を築いています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学からの面談時において、ご本人やご家族の要望や思い、不安な点を把握しながら、グループホームとしての全般的な説明を行い、安心してホームでの生活を送って頂けるよう、信頼関係の構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から面談時において、自分が家族だったらとの思いで不安な点、要望等を傾聴し、説明を重ねていく事で安心して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の入居相談においては、入居を前提とした対応ではなく、グループホームでの支援が適しているか、共同生活が可能かどうか等、本人にとっての状況を考慮して決定しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるという事を念頭に、常に尊敬する姿勢を忘れないようにしています。個々の得意分野や能力を活かして、日常生活のお手伝いをして頂けるよう、支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態をご家族に報告し、常に相談や意見を求める事で、ご本人にとって最良のケアを提供できるようにと考えています。写真や動画もSNSを通して報告する等の対応をしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族は勿論、友人との関係を継続出来る様、希望時には電話や手紙での連絡も支援しています。ご家族の協力もあり、昔の友人の来訪等も受け入れて交流して頂きました。	入居前の面談で、馴染みの人や馴染みの場所等に関する情報を把握しています。昔の友人が面会に来るなど支援をしています。携帯電話を持ち込み連絡を取る方や、事業所の電話を取り次ぐ支援をしています。年賀状の受け取りの支援もあります。個別対応では希望する食事と一緒に行く支援をしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々、状況の把握に努め、共同生活を営む上で個性を尊重しながら助け合いの気持ちを持ってもらえる様に支援しています。また、入居者同士のコミュニケーションが盛んに行われるように、スタッフが架け橋になるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な事情で退所された方がいらっしゃいますが、退所後も行事に参加して下さる等、交流が続いています。又、他施設へ入所された方との年賀状、手紙のやり取りや面会にも伺っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや希望等の把握に努め、職員間で共有できるようにしています。疎通が困難な方でも表情等で理解するように努め、ひとり一人の思いに添う事が出来る様に努めています。	入居前の面談で本人、家族、介護支援専門員から、過去の生活歴、既往歴、趣味、嗜好品、暮らし方の希望等に関する情報を聴き取り、アセスメントシートを作成しています。入居後はアセスメントシートの情報を基に日々関わりながら、意思の疎通が困難な方の場合は、仕種や表情等から今現在の思いや、意向の把握に努め、職員間で情報共有を図っています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からのアセスメントで生活歴や趣味、生活環境等伺ってサービス提供に役立てています。入居後も情報収集に努め、新たな発見があった時には職員間で共有し、個々の生活をより豊かに楽しく過ごして頂けるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前中に入居者全員のバイタルチェックを実施し、気になる状況があった際には看護師に報告し、指示を仰いでいます。特変がなければ、散歩や入浴等通常通りのケアを実施しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族、そして、Dr、看護師、職員の意見を参考に、計画作成担当者が中心となって介護計画を作成しています。介護計画はご本人とご家族にも確認して頂いています。	入居時のアセスメントの情報を基に、初回の介護計画を作成し、2週間位は様子を見ながら事前に得られているADLや、IADL等に関する情報と差異が無いか等を確認しながら見直しています。介護計画は3ヶ月毎にモニタリングをケアマネジャーを中心に行い、6ヶ月後に更新のケアカンファレンスをユニット会議で実施しています。家族や医療関係の意見等も参考にして、現状に即した介護計画の作成を行っています。家族へは電話やlineで説明後に、郵送して確認をいただいています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤共に介護計画を実践し、状態の変化や言動等を詳細に個別で記録しています。特記事項は、介護日誌に記録し、看護師に報告すると共に職員全員が把握するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所に多機能性を有している訳ではないので、ご家族との密接な関係を大切に、様々なニーズに柔軟に対応しています。ケアプラザや地域の行事にも積極的に参加しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事への参加やお祭り際にはホームの駐車場を休憩場所にして子供達に飴や冷菓を提供する等の交流をはかっています。必要に応じてボランティアの方をお願いしています。今後も入居者の意向に沿える様努めていきたいと思っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の医師の往診、毎週の看護師の巡回を受けています。医師、看護師の指示や、家族の意向により、外部受診を必要とする場合には、協力病院などで受診しています。また、ご家族や本人から希望があれば、ご意向に沿った形での受診対応をしています。	入居時に協力医療機関の説明をして、本人・家族の希望する主治医を決めています。現在は、2名が地元のクリニックの往診を受けており、他全員は法人の橋本クリニックから隔週の訪問診療を受けています。精神科の月1回の訪問診療と、ライオン歯科から必要に応じた往診があります。看護師の週1回の巡回があり、その時には職員も同席して日々の様子や気になる点を伝えることで、適切な医療連携が図れるようにしています。家族の希望で眼科の受診対応を事業所で支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、週に1回の看護師の巡回があります。日々の業務日誌による報告を行い、24時間体制で連絡が取れるようになっており、常に入居者、職員が気軽に相談できる関係です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又はそうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した入居者に関する連絡事項がある時には、病院側と連絡を取り合っています。入退院に備え、ホーム側も病院側も看護サマリーを用意し、情報交換を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは、医師、看護師の連携により入居者の状態に応じて対応しています。御家族様に十分な説明を行い、御意向を確認し方針の決定をしています。状態の変化に応じて話し合いの場を持ち、意思の確認も行っています。	契約時に重度化や終末期における指針の説明と、延命治療の有無を確認し、同意書を取り交わしています。状態の変化に応じて家族との話し合いの場を設け、医師からの説明と事業所で出来ること、出来ないことの説明を行い、家族の意向を確認し、今後の方針を決めています。事業所で看取りを希望される場合は、看取り介護計画書を作成し、看取り介護マニュアルに沿った対応を実施しています。殆どの職員は看取り介護を経験していますが、研修はその都度実施しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し、緊急時に備えています。救急対応の流れや連絡先なども事務所内に掲示しています。また、年に1～2回は救急救命講習を受講しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の指導により、年に2回、消防署の協力を受けながら防災訓練を実施しています。非常時には、近隣の方にも協力して頂けるよう要請しており、運営推進会議でも確認を行うなどを行っています。	防災訓練を年2回、夜間の火災発生を想定した訓練を実施しています。1回は消防署の立ち会いがあり、消火訓練や避難誘導、通報訓練など実施しています。併せてAEDや、防災設備の取り扱い要領などの訓練も行い、災害時に対処出来るよう訓練を重ねています。有事には、緊急連絡で地域住民の協力が得られるように話し合っています。BCPの対応として書類を整備して、職員研修も年2回計画しています。備蓄品としては水・米などの食料とカセットコンロ・ランタン・衛生用品・Pトイレなど用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状態や個性を踏まえて、自尊心を傷つけることのないよう言動に気を付けています。個人情報の取り扱いについては、守秘義務の徹底を図っています。	新人研修や、継続研修でプライバシーの保護、倫理、法令遵守など定期的に研修計画を立てて実施しています。日常のケアでも利用者が興奮した状態でも、職員は冷静を忘れず相手の言葉を反復するなどの対応が出来るように話し合っています。個人情報の取り扱いでは、利用者の書類関係は置く場所を決めて管理し、職員には守秘義務の徹底を図っています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からコミュニケーションを重ねる事で傾聴、受容、共感を基本として対応する事を心掛けています。ご入居者の思いを把握して自己決定を促すようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思を伝える事が困難な方が多い為、ホームのスケジュールに沿った形で過ごされる事が多いですが、体調面等を考慮しながら、個々のペースを尊重して行動を束縛する事はなく、自由に過ごして頂いてます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、本人のお好きな髪型にして頂いています。身だしなみに関しても、本人の好きな色やデザインの服を身に着けていただけるように支援しています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立度の高い方々は積極的に食事の準備や片づけをして下さいます。個々の能力、状態に応じてお盆拭き、テーブル拭き等、出来るだけ多くのご利用者様にかかわって頂けるように支援しています。	メニュー付きの食材を業者に発注し、職員が調理しています。自立度の高い利用者には、盛り付け、食器拭き、お盆拭きなど手伝っていただき、残存能力の維持につなげています。食材業者では、行事食や特別食にも対応して行事の際は注文しています。誕生日会では手作りケーキでお祝いしたり、好きな食事メニューの要望が有った場合は、発注を止め事業所で別途買い出しに行つて用意したり、お寿司やハンバーガーなどテイクアウトする時もあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の配送サービスを利用し、バランスの取れた献立を用意しています。個人の嗜好に合わせ、他の物を用意したり、状況に応じて、ミキサー・キザミ食で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて促し、全員に行って頂くよう支援しています。ご自分で出来ない方に関しては職員が介助し、口腔内の清潔の保持に努めています。また、必要に応じて訪問歯科を利用しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁時には、自尊心や羞恥心への配慮は勿論、排泄に関する不安が解消されるよう、排泄表を参考にしながら個々の状態の間隔を見極めて、不快な思いをしないよう支援しています。	利用者全員の排泄表をつけ、1人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。可能な限りトイレで排泄できるよう、時間やタイミングを見計らった声掛けや誘導を行っています。排泄の失敗が続いた場合などは、ユニット会議やミーティングで適した排泄支援方法を検討し、自立に向けた排泄支援を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、飲水や適度な運動を促し、1日1回は乳製品を摂取して頂くように心がけています。毎日の排便確認を行い、便秘の際には看護師に報告し、指示を仰ぎ対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は週2回の入浴としていますが、季節や個々の状態に合わせて臨機応変に対応し、心地良い入浴をして頂けるよう心掛けています。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯も楽しんで頂いています。 清潔保持の為に、毎朝全員に清拭を実施しています。	入浴は週に2回を基本とし、午前中に行っています。入浴前のバイタルチェックと本人の意思を確認したうえで、気分よく入浴していただけるよう支援しています。衣服の着脱時には、身体チェックを行い、痣や皮膚疾患などの早期発見に努め、入浴後は、水分の補給と保湿クリームの塗布など支援しています。入浴は基本週2回のため、臀部など清潔保持の為に、毎朝全員に清拭を実施しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、浅眠が続く方は睡眠チェックシート等でパターンを把握し、生活リズムを観察しつつ、日中の運動を促す等して安眠できるよう支援しています。生活のリズムが崩れて昼夜逆転や夜間不眠の状態が見られる方には精神科の訪問ドクターによる指導を受けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服用している薬の説明書をファイルにまとめ、いつでも確認できるようにしています。状態変化が見られた際には、医師の往診の際に報告するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や得意分野を日常生活の中で活かし、活躍の場を提供する事で、生きがいや喜びを感じて頂ける様に支援しています。時には個々で、近くのレストランに外出、気分転換を図って頂く等の機会を設けています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、外気浴や散歩の時間を設け、外気に触れる機会を作っています。車椅子の方も、極力外の空気に触れて頂けるように支援しています。ご家族と外出する事を支援するのは当然ですが、利用者様はスタッフと一緒にランチに出かける事もあります。	天気や気候の良い日には、毎日のように散歩へ行き、車椅子を使用している方も含め、玄関前のベンチや、駐車場での外気浴をして、外気に触れながら季節を肌で体感してもらうように支援しています。家族と一緒に外出して食事をされる方、個別の希望で職員と一緒にランチにお連れしている方もいます。正月には近所の神社に初詣やどんど焼きに行き、季節では、ドライブで里山ガーデン・市民の森・四季の森公園・ズーラシアなどに出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が、ご自身での金銭管理は困難な状況の為、ホームで代行しています。ただし、ご自分でお金を支払う事が出来る方に関しては、そのような状況での支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時には、電話でご家族やご友人と話をして頂くようにしています。また、入居者の中には、携帯電話を持参されている方もいて、毎日ご家族と連絡を取り合っています。手紙でのやり取りの支援も行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が集うリビングでは快適性を重視し、BGMに季節を感じられる、親しみやすい曲を流しており、音量にも配慮しています。日差しは、レースのカーテンで調整しています。	パティオを中心とした回廊式の造りになっており、太陽の陽が全体に入り、日中はカーテンで採光を調節しながら快適に過ごせるようにしています。また、壁には利用者の作品や、季節や行事の装飾作品と、行事の際の写真なども飾られています。季節の花々も玄関など色々な場所に飾ってあります。食事の時間などにリビングでは、BGMで季節を感じる曲や、親しみやすい曲などを流し快適な空間作りをしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然とリビングに入居者が集い、談笑されています。個別に利用できる談話スペースもあり、こちらもご家族様の面会時等、さまざまな機会に利用されています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明の際に、使い慣れたものを持参して頂くように家族にお願いしていますので、その人らしさを感じられる居室となっています。	各居室には洗面台、クローゼット、エアコン、防災カーテンが完備されています。居室は、家庭の延長として生活していただけるよう、それ以外の家具や調度品については、自宅で使い慣れた物を持ち込んでいただくように声かけしています。居室担当の職員が衣替えの手伝いや、誕生日会の希望など聴いて準備しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレは、分かりやすいように大きな文字で表示しています。施設内は、全てにおいてバリアフリーになっていて、安全で自立した生活が送れるように工夫されています。		

目 標 達 成 計 画

事業所
ふあいとパティオつくいけ(だいち)

作成日 令和7年1月14日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	認知症が重度な方の言動を批判、攻撃する等、その方を不安にする入居者あり。	お互いを思いやることができ良い関係を築くことが出来る。	トランプやかかるた等、一緒にできるレクをする事で、仲良く楽しんでいる様子あり。継続して見守って行く。	12ヶ月
2	17	認知症が重度で他の居室に入る等、多動な方の行動の把握。	スタッフの連携により、行動の把握に努め、他入居者へも説明、理解を求める。	極力リビングで過ごして頂けるようなレクや興味を持てることを追求する。	6ヶ月
3	16	災害への備えとして、ヘルメット等の準備が出来ていない。	入居者全員分の防災関連の不足分の補充。	入居者全員とスタッフ分を合わせた防災頭巾を用意する。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	ふあいとパティオつくいけ
ユニット名	あおぞら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の指針を踏まえ、職員皆で考えて、ホーム独自の「地域の中で個々の思いを大切に寄り添う介護を行います」との理念を構築しました。思いは常に「地域の皆様と共にある暮らし」と考えています。毎朝の申し送り時には皆で理念を唱えてから業務に携わることが日課となっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事にも積極的に参加しています。今年度は行事も徐々に復活しており感染に注意を払いながら可能な限り参加させて頂いています。毎日の散歩の折には地域の方々から暖かいお言葉をかけて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の運動会・夏祭りの行事や地域活動への参加を通して、認知症の方と地域の方が直接交流を持って頂くことで、認知症に関する理解を深める機会を設けています。今年度より中止されていた行事も復活した為、参加可能な行事には参加して交流を図っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方々に、報告必要事項の説明やホーム内での相談事をしています。その際、委員からの助言もホームの運営に生かしています。また、ホーム側からの要望も実行して頂いています。今年度は2カ月ごとにホームにお越し頂き対面での会議を実施しました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の方とはできるだけ連携がスムーズに行えるように不明な点は電話で確認しています。生活支援担当者とは常に連絡を取り合い情報提供に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、鍵が掛かる自動ドアになっていますが、しっかりと見守りが出来る体制が整えば、自由に出入りが出来るように開錠しています。事務所に身体拘束に関するマニュアルを設置しており、ホームにおいて年2回の研修と4回の委員会を実施、職員への周知を図り、常に身体拘束ゼロを目指し、ケアに取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としてのマニュアルを設置し、職員が虐待についての知識を身に付けられるように定期的に研修を行っています。ホーム内で虐待が行われていないか虐待に関する自己チェックも行っており、各々が理解を深める事が出来る様に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、必要な知識を得る機会を設けています。実際、制度適用の必要性がある方には、区の担当者やキーパーソンの方と協力して過去に利用した方、現在も利用している方が数名いらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書、契約書等を通じて説明を行い、同意を得ています。解約時にも詳しく手順を伝え、協力できる部分は納得して頂けるまで行うようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在面会は可能になっており、直接意見を伺う機会も持てる様になりました。SNS、電話にて近況報告を行いご意見ご希望を確認しています。契約時に苦情相談窓口の説明を行い、事務所には専用の用紙を備えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて面談を行い、各々希望や意見等が聞かれた際には上司や法人に伝えるようにしています。 ホーム内で解決可能な事はユニット会議で話し合いにより解決するようにしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として実力能力主義を掲げ、昇給、賞与の時期には査定を行い、反映させています。 働きやすい環境という点についても配慮されており、ほとんど離職する職員はなく、定着率の良さにつながっています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、法人より各レベルに応じて研修を受講できるような制度があります。また、資格取得支援制度を設けています。 介護職に必要な研修は、DVDに収められたものも用意しており、各自で勉強できるようになっていますし、定期的にホームにおいての研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会による交換研修制度を利用して学ぶ機会を持っていましたが、コロナ禍より中止したままになっています。また、近隣のグループホームとお互いの行事に参加し合うなど交流を重ねて友好関係を築いています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学からの面談時において、ご本人やご家族の要望や思い、不安な点を把握しながら、グループホームとしての全般的な説明を行い、安心してホームでの生活を送って頂けるよう、信頼関係の構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から面談時において、自分が家族だったらとの思いで不安な点、要望等を傾聴し、説明を重ねていく事で安心して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の入居相談においては、入居を前提とした対応ではなく、グループホームでの支援が適しているか、共同生活が可能かどうか等、本人にとっての状況を考慮して決定しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるという事を念頭に、常に尊敬する姿勢を忘れないようにしています。個々の得意分野や能力を活かして、日常生活のお手伝いをして頂けるよう、支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態をご家族に報告し、常に相談や意見を求める事で、ご本人にとって最良のケアを提供できるようにと考えています。写真や動画もSNSを通して報告する等の対応をしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族は勿論、友人との関係を継続出来る様、希望時には電話や手紙での連絡も支援しています。ご家族の協力もあり、昔の友人の来訪等も受け入れて交流して頂きました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々、状況の把握に努め、共同生活を営む上で個性を尊重しながら助け合いの気持ちを持って頂ける様に支援しています。 また、入居者同士のコミュニケーションが盛んに行われるように、スタッフが架け橋になるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な事情で退所された方がいらっしゃいますが、退所後も行事に参加して下さる等、交流が続いています。又、他施設へ入所された方との年賀状、手紙のやり取りや面会にも伺っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや希望等の把握に努め、職員間で共有できるようにしています。疎通が困難な方でも表情等で理解するように努め、ひとり一人の思いに添う事が出来る様に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からのアセスメントで生活歴や趣味、生活環境等伺ってサービス提供に役立てています。入居後も情報収集に努め、新たな発見があった時には職員間で共有し、個々の生活をより豊かに楽しく過ごして頂けるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前中に入居者全員のバイタルチェックを実施し、気になる状況があった際には看護師に報告し、指示を仰いでいます。特変がなければ、散歩や入浴等通常通りのケアを実施しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族、そして、Dr、看護師、職員の意見を参考に、計画作成担当者が中心となって介護計画を作成しています。介護計画はご本人とご家族にも確認して頂いています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤共に介護計画を実践し、状態の変化や言動等を詳細に個別で記録しています。特記事項は、介護日誌に記録し、看護師に報告すると共に職員全員が把握するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所に多機能性を有している訳ではないので、ご家族との密接な関係を大切に、様々なニーズに柔軟に対応しています。ケアプラザや地域の行事にも積極的に参加しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事への参加やお祭り際にはホームの駐車場を休憩場所にして子供達に飴や冷菓を提供する等の交流をはかっています。必要に応じてボランティアの方をお願いしています。今後も入居者の意向に沿える様努めていきたいと思っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の医師の往診、毎週の看護師の巡回を受けています。医師、看護師の指示や、家族の意向により、外部受診を必要とする場合には、協力病院などで受診しています。また、ご家族や本人から希望があれば、ご意向に沿った形での受診対応をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、週に1回の看護師の巡回があります。日々の業務日誌による報告を行い、24時間体制で連絡が取れるようになっており、常に入居者、職員が気軽に相談できる関係です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した入居者に関する連絡事項がある時には、病院側と連絡を取り合っています。入退院に備え、ホーム側も病院側も看護サマリーを用意し、情報交換を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは、医師、看護師の連携により入居者の状態に応じて対応しています。御家族様に十分な説明を行い、御意向を確認し方針の決定をしています。状態の変化に応じて話し合いの場を持ち、意思の確認も行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し、緊急時に備えています。救急対応の流れや連絡先なども事務所内に掲示しています。また、年に1～2回は救急救命講習を受講しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の指導により、年に2回、消防署の協力を受けながら防災訓練を実施しています。非常時には、近所の方にも協力して頂けるよう要請しており、運営推進会議でも確認を行うなどを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状態や個性を踏まえて、自尊心を傷つけることのないよう言動に気をつけています。個人情報の取り扱いについては、守秘義務の徹底を図っています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からコミュニケーションを重ねる事で傾聴、受容、共感を基本として対応する事を心掛けています。ご入居者の思いを把握して自己決定を促すようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思を伝える事が困難な方が多い為、ホームのスケジュールに沿った形で過ごされる事が多いですが、体調面等を考慮しながら、個々のペースを尊重して行動を束縛する事はなく、自由に過ごして頂いてます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、本人のお好きな髪型にして頂いています。身だしなみに関しても、本人の好きな色やデザインの服を身に着けていただけるように支援しています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立度の高い方々は積極的に食事の準備や片づけをして下さいます。個々の能力、状態に応じてお盆拭き、テーブル拭き等、出来るだけ多くのご利用者様にかかわって頂けるように支援しています。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の配送サービスを利用し、バランスの取れた献立を用意しています。個人の嗜好に合わせ、他の物を用意したり、状況に応じて、ミキサー・キザミ食で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて促し、全員に行って頂くよう支援しています。ご自分で出来ない方に関しては職員が介助し、口腔内の清潔の保持に努めています。また、必要に応じて訪問歯科を利用しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁時には、自尊心や羞恥心への配慮は勿論、排泄に関する不安が解消されるよう、排泄表を参考にしながら個々の状態の間隔を見極めて、不快な思いをしないよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、飲水や適度な運動を促し、1日1回は乳製品を摂取して頂くように心がけています。毎日の排便確認を行い、便秘の際には看護師に報告し、指示を仰ぎ対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は週2回の入浴としていますが、季節や個々の状態に合わせて臨機応変に対応し、心地良い入浴をして頂けるよう心掛けています。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯も楽しんで頂いています。 清潔保持の為に、毎朝全員に清拭を実施しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、浅眠が続く方は睡眠チェックシート等でパターンを把握し、生活リズムを観察しつつ、日中の運動を促す等して安眠できるよう支援しています。生活のリズムが崩れて昼夜逆転や夜間不眠の状態が見られる方には精神科の訪問ドクターによる指導を受けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服用している薬の説明書をファイルにまとめ、いつでも確認できるようにしています。状態変化が見られた際には、医師の往診の際に報告するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や得意分野を日常生活の中で活かし、活躍の場を提供する事で、生きがいや喜びを感じて頂ける様に支援しています。時には個々で、近くのレストランに外出、気分転換を図って頂く等の機会を設けています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、外気浴や散歩の時間を設け、外気に触れる機会を作っています。車椅子の方も、極力外の空気に触れて頂けるように支援しています。ご家族と外出する事を支援するのは当然ですが、利用者様はスタッフと一緒にランチに出掛ける事もあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が、ご自身での金銭管理は困難な状況の為、ホームで代行しています。ただし、ご自分でお金を支払う事が出来る方に関しては、そのような状況での支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時には、電話でご家族やご友人と話をして頂くようにしています。また、入居者の中には、携帯電話を持参されている方もいて、毎日ご家族と連絡を取り合っています。手紙でのやり取りの支援も行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が集うリビングでは快適性を重視し、BGMに季節を感じられる、親しみやすい曲を流しており、音量にも配慮しています。日差しは、レースのカーテンで調整しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然とリビングに入居者が集い、談笑されています。個別に利用できる談話スペースもあり、こちらもご家族様の面会時等、さまざまな機会に利用されています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明の際に、使い慣れたものを持参して頂くように家族にお願いしていますので、その人らしさが感じられる居室となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレは、分かりやすいように大きな文字で表示しています。施設内は、全てにおいてバリアフリーになっていて、安全で自立した生活が送れるように工夫されています。		

目標達成計画

事業所

ふあいとパティオつくいけ(あおぞら)

作成日

令和7年1月14日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	入居者の一人ひとりの状態に合わせた対応を行なう事が難しい。	自立度の高い方と重度な方への対応に差が生じないように、一人ひとりに合ったアクティビティを提供する。	一人ひとりに合った対応をする為に、スタッフ間での連携をより密にとり、対応が偏らないように心掛ける。	12ヶ月
2	10	スタッフによってはスキル不足もあり、連携不足によるケアにばらつきが見られる。	一緒に業務を行う上で他スタッフのストレスにもなり、入居者への影響事がないようにする。	その時々状況を把握して、適切な介護を行うように繰り返し指導する。	6ヶ月
3	16	災害への備えとして、ヘルメット等の準備が出来ていない。	入居者全員分の防災関連の不足分の補充。	入居者全員とスタッフ分を合わせた防災頭巾を用意する。	3ヶ月
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。